

1. 総括

原点に戻って

人材不足解消のために、2018年度は各事業の黒字化を目標の前面に打ち出し、具体的な数値目標を掲げて事業を行ってきましたが、ともすればそれは「利用者のために」という理念を置き去りにしてしまうリスクもありました。そこで、2019年度は原点に戻り、目標を黒字化から、①「いきいき楽しく、元気で」を実現する場と機会の創出、②「困ったときの陽だまりさん」という信頼に応える、という2つに転換します。

目標実現のために

上記の目標実現のために、2019年度は次の3点に重点的に取り組みます。

1. 「陽だまりクラブ」の改革

陽だまりクラブは、活動者にとっても自身の健康と生きがいにつながるものです。その魅力を広く伝え、活動に参加する仲間を増やしていくために、活動者同士のつながりの場を提供していきます。また、活動者の得意なことを生かして、家事支援や介護にとらわれず、お手伝いの分野を広げていきます。

2. 認定NPO法人の取得

陽だまりクラブは事業の性質上赤字事業となります。2018年度は、約130万円の寄付収入があったものの約250万円の大幅な赤字となりました。年会費や利用料等を上げずに運営していくために、引き続き陽だまりクラブの成果や価値を広く伝えていくとともに、寄付をしやすい環境づくりのため認定NPO法人を取得します。陽だまりが認定NPO法人を取得すれば、寄付した個人は寄付金控除が受けられ、企業は損金算入ができます。

3. ガバナンス力を高める

広島県にはNPO法人が834団体あり、そのうち認定NPO法人は12団体と僅か1.4%にすぎません。認定NPO法人を取得した後は、広島県を代表するNPOとして今以上に公正明瞭な運営が求められます。法人運営能力を高めるために、専門的な知見を有する外部理事を迎える予定です。

2. 事業報告

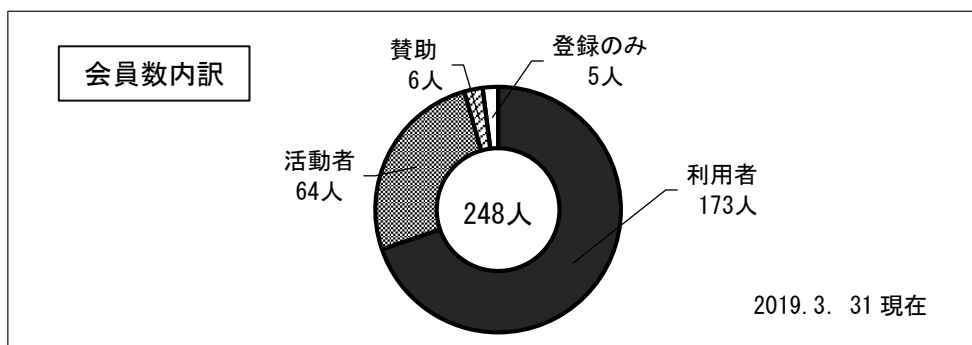
(1) 陽だまりクラブ（非営利事業）

① 目的

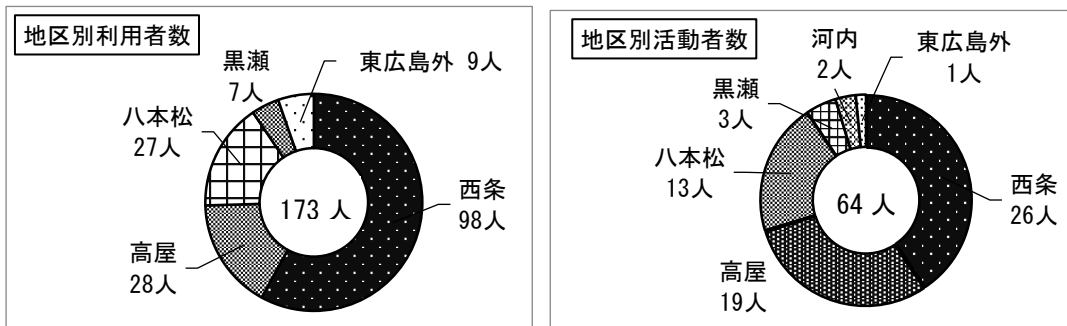
陽だまりクラブは会員制のたすけあい活動です。地域の人々がお互いに助け合うことを趣旨とし、家事や介護といった身の回りのことをはじめ、生活での困りごとをお手伝いします。

② 会員について

②-i 会員数

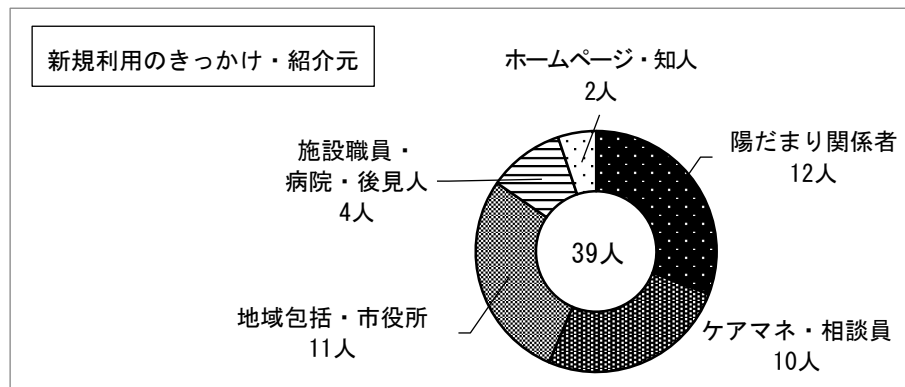


■ 全体の会員数内訳は 2017 年度とほぼ同様でした。

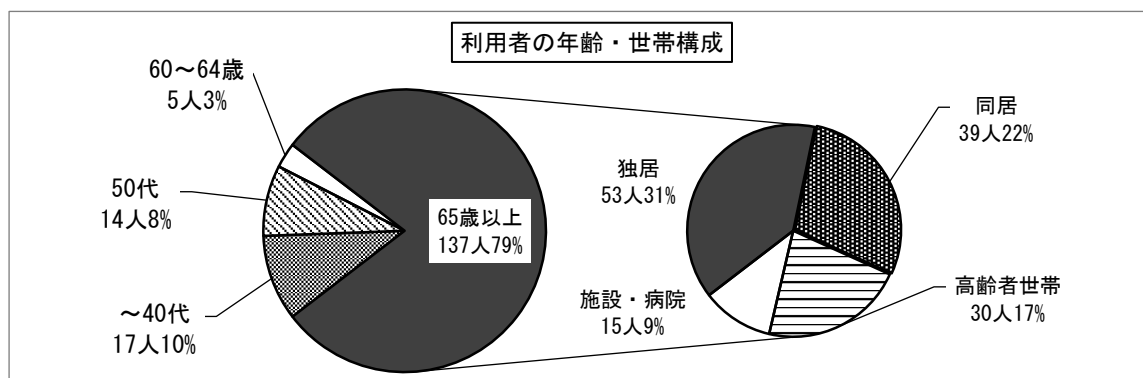


※ 東広島市：西条・高屋・八本松・志和・黒瀬・河内・福富・豊栄・安芸津（9町）

②-ii 利用者

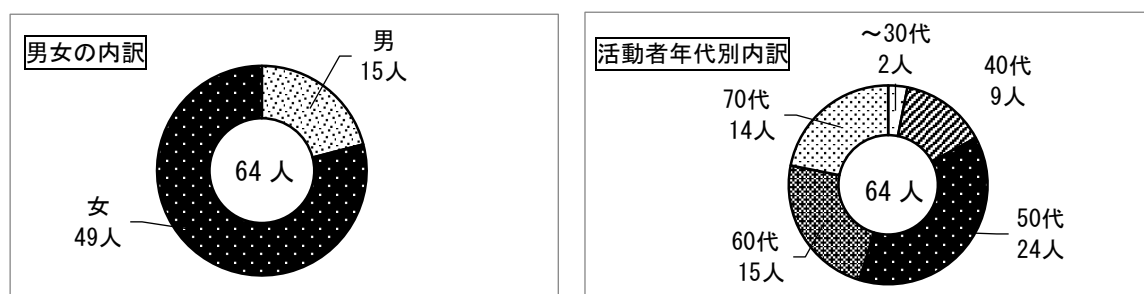


- 新規利用者は 2017 年度より 10 人減少しました。活動者不足により積極的に広報活動できなかったことと、オプションを利用できるヘルパー事業所が増えたことが原因と思われます。
- 介護認定が降りていても、同居の家族がいるためヘルパーの生活支援を利用できない方からの相談がコンスタントにあります。また、地域包括支援センターの「(介護保険サービス以外の) 社会資源を活用する」という傾向を受け、要支援の方の生活支援の相談が増えています。
- 障害者施設の職員不足による余暇活動のお手伝い、外出付き添いの新規依頼も引き続きあります。(2018 年度、新規 4 人)

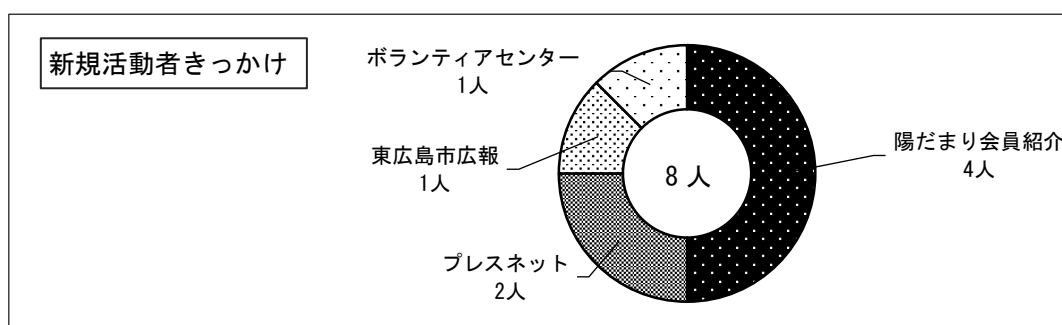


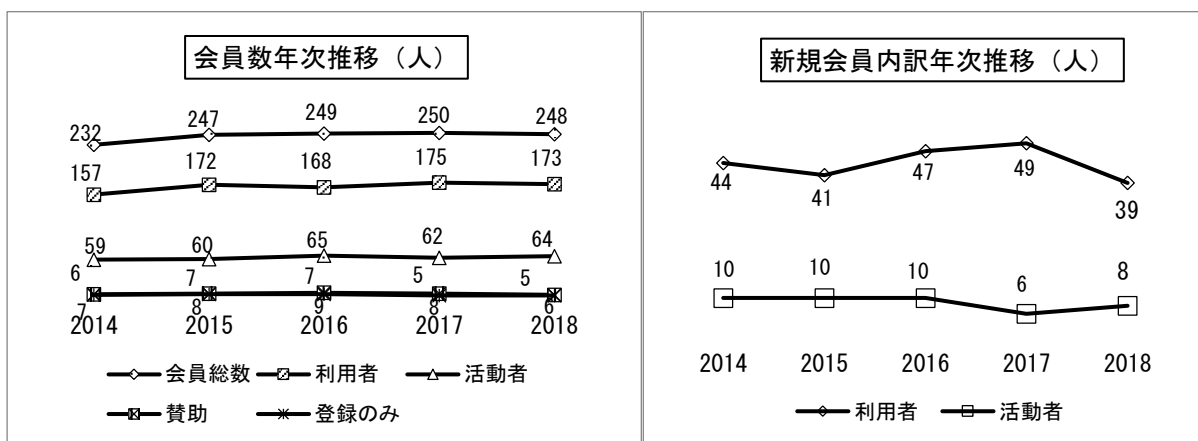
- 65 歳以上では、2017 年度と比較し同居 6 人増、施設・病院 6 人増に対して、独居は 13 人減でした。これは、施設入所・入院等で利用終了したことが主な原因と思われます。

②-iii 活動者

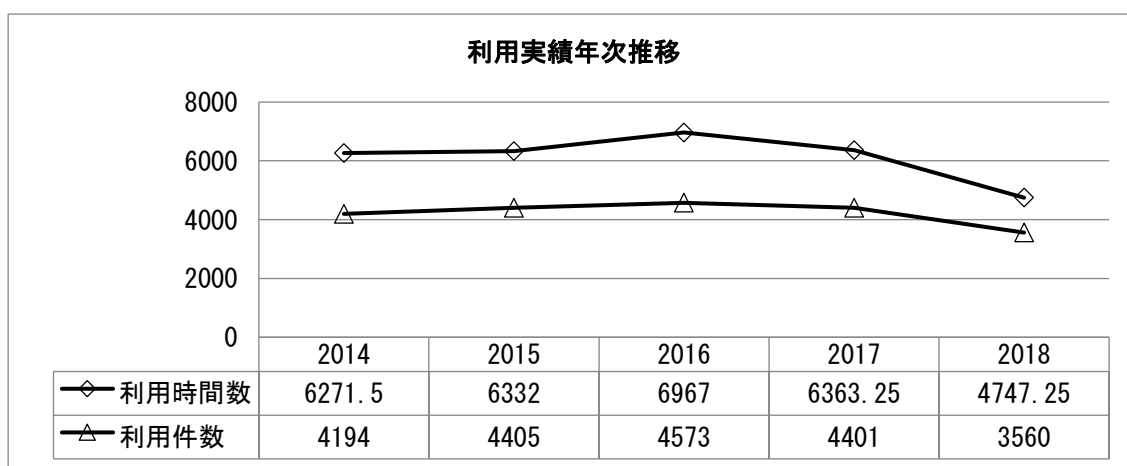


- 男女の内訳は 2017 年度とほぼ変わりありません。
- 年代別内訳では 60 代以上の登録が約 4 割となっています。退職後の活動の場の一つとして登録する方が多いように思われます。

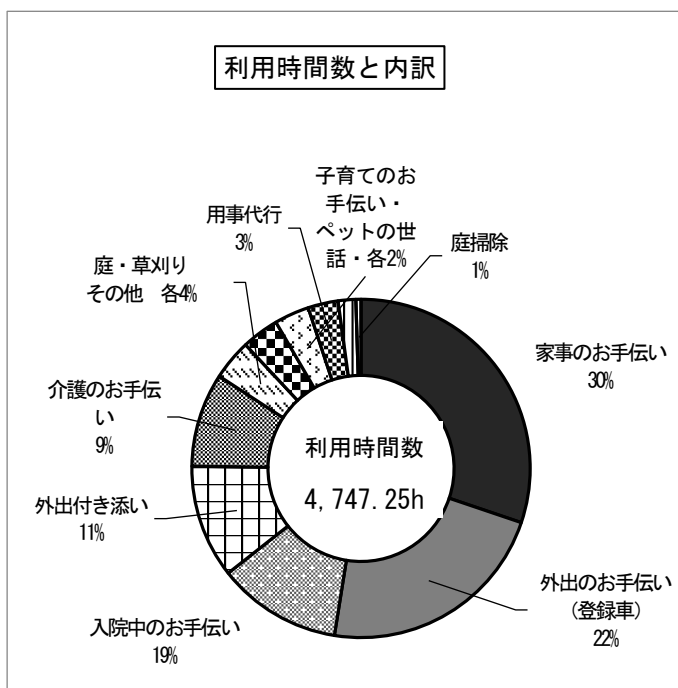




③ 実績報告



- 利用時間数は2017年度と比較して1,616時間減、利用件数は841件減でした。ほぼ毎日複数回、長時間利用されていた方（病院・自宅での見守り）の利用がなくなったことと、草取りの依頼が減ったことが主な原因と思われます。



内容	時間数
家事のお手伝い	1433.25
外出のお手伝い(登録車)	1060
入院のお手伝い	563
外出付き添い	514.25
介護のお手伝い	425.75
庭・草刈り	183.5
その他	169.25
用事代行	158.25
子育てのお手伝い	136.75
ペットの世話	80
庭掃除	23.25

[内容例]

家事のお手伝い・食事の支度、買い物、掃除、洗濯など

介護のお手伝い・身体介護、話し相手、見守り、デイサービスの送り出し、入院中のお世話など

子育てのお手伝い・家事代行、託児、子守り、産前産後のお手伝いなど

外出のお手伝い（登録車）・陽だまり号や活動者の車を使って外出

外出のお手伝い（公共交通機関）・電車、バス、タクシーを利用して外出

④ 研修報告

④-i 主催研修

	月日	内容	講師	受講生
1	4/14・15	「第1回福祉有償運送運転者講習会」・認定講習/セダン講習	・理学療法士 ・広島県交通安全協会	18人 (陽だまり4人)
2	計4回	活動者新人研修	・陽だまり事務局スタッフ	計5人
3	12/1・2	「第2回福祉有償運送運転者講習会」・認定講習/セダン講習	・理学療法士 ・広島県交通安全協会	19人 (陽だまり0人)
4	1/16	「活動者の集い」 ①事例紹介、活動者の心得 ②陽だまりの未来について	陽だまり事務局スタッフ	21人 ・活動者15人 ・事務局6人
5	3/17	「安全運転講習会」	広島県東広島警察署交通課	運転活動者18人 (補講3/19・2人)

④-ii 外部研修

月日	内容	主催	参加者
10/21	普通救急講習I（応急手当）	東広島消防局	14人

⑤ 社外活動

⑤-i 広島県移動サービスネットワーク（平成23年12月発足）

	月日	内容	主催	参加者
1	9/15	広島県移動サービスネットワーク勉強会「生活交通を考える～住民主体の移動・外出支援のつくり方～」	広島県移動サービスネットワーク他	26団体 52人
2	11/24	中国地区交流会（山口県）	山口県移動サービスネットワーク他	3人
3	2/19	福祉移送ネットワーク講座（岡山県）	岡山県/NPO法人移動ネットおかやま	2人

※ 会長を宮本理事、事務局を陽だまりが担当。

⑤- ii NPO法人全国移動サービスネットワーク

月 日	内 容	場 所	参加者
6/23	・ NPO法人全国移動サービスネットワーク通常総会 ・ 記念行事「地域における『福祉』と『交通』の連携を考える」	東京都港区 三田会館	1人

※ 2015年度より宮本理事が全国移動ネット理事に就任。

⑥ 課題と方針

- 活動者の高齢化、孫育てや親の介護、ドライバーの定年等により活動者が減少しており、新規活動者の獲得が必須の課題となっています。
- 活動者の得意分野の紹介や、具体的でわかりやすい活動内容の紹介を心掛け、活動に興味を持ちやすく気軽に依頼しやすい広報活動をしていきます。
- 活動者に陽だまりクラブの会員になってよかったと思ってもらえるよう、活動者同士のつながりの場を企画し、イベント等への参加の機会を提供していきたいと考えています。

(2) 訪問介護（営利事業）

① 目的

- 介護を必要とされる方々が、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、また、介護をされているご家族の負担を軽減できるよう支援を行います。

② 実績報告

② - i 利用者実数

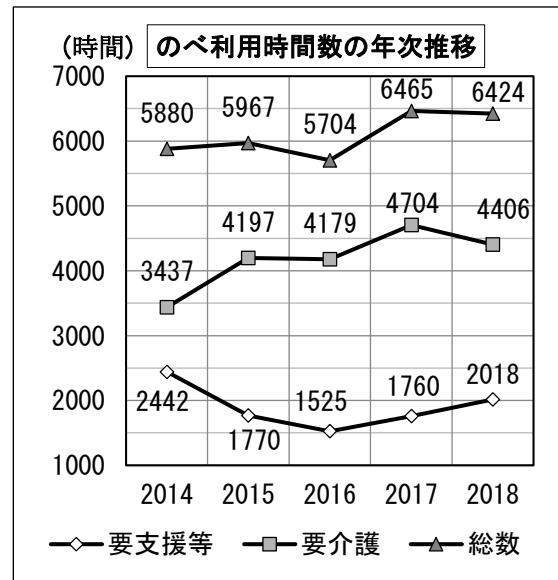
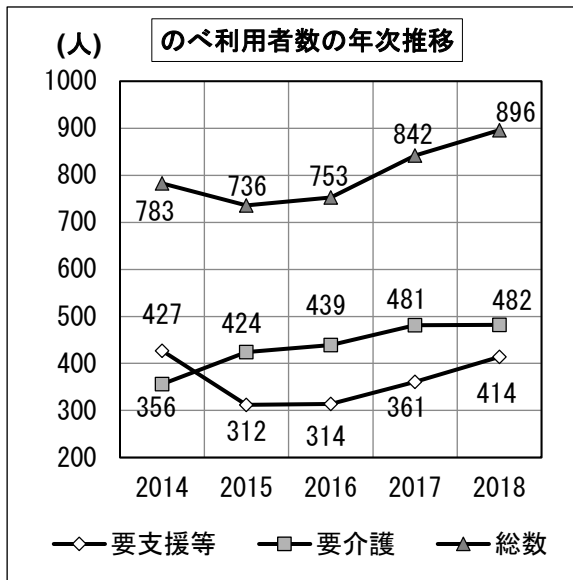
2019年 3月31日現在

事業 対象者 (※注1)	介護保険							障害者 総合支 援	計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
1人	21人	14人	29人	4人	2人	3人	3人	6人	83人

※注1) 事業対象者…要介護認定がなく、基本チェックリストに該当し、介護予防・日常生活支援総合事業の訪問介護、通所介護のサービスを受けている方。

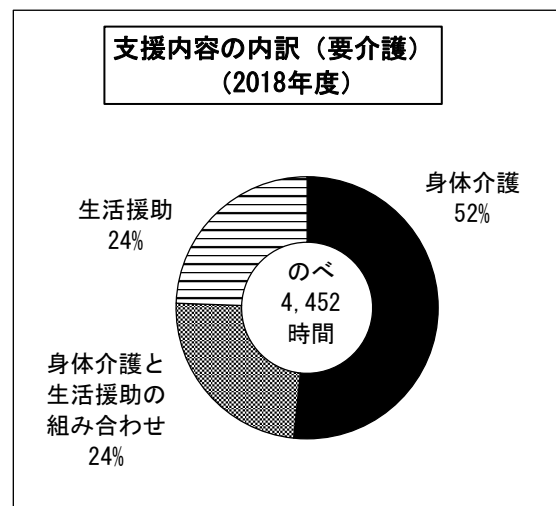
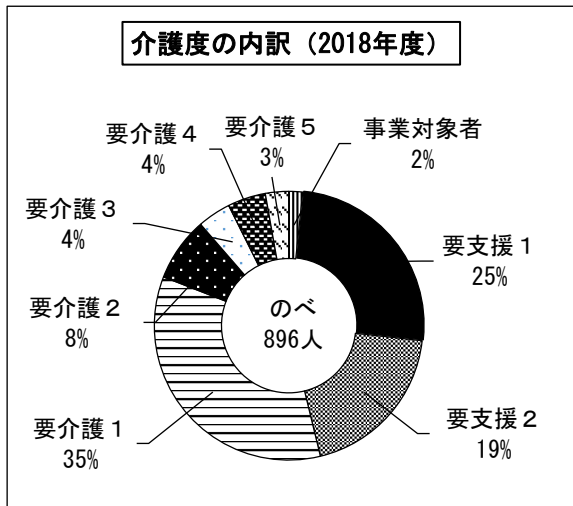
- 2018年度は、管理者（サービス提供責任者と兼務）1人、サービス提供責任者2人、登録ヘルパー14人で事業を行いました。

② - ii 介護保険

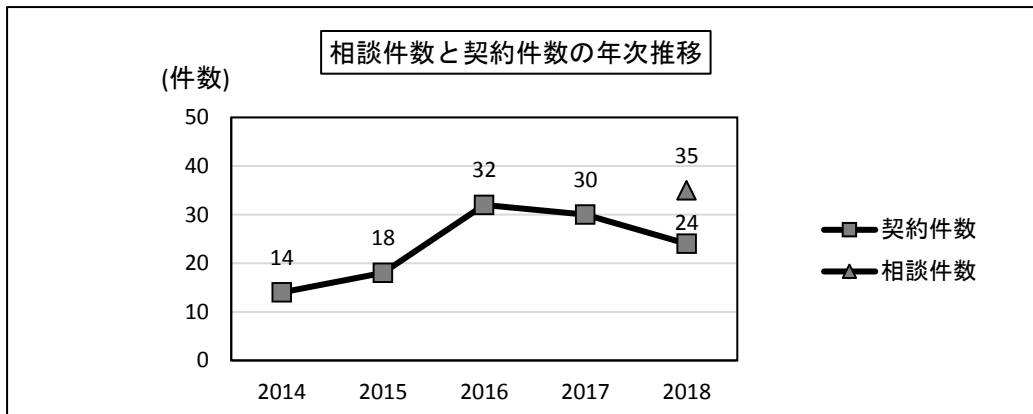


(※注2) 要支援等…事業対象者と要支援者のこと

- のべ利用者数は2017年度に比べ6%（のべ54人）の増加となりましたが、のべ利用時間数は1%（のべ41時間）の減少となりました。
- 要介護ののべ利用者数は2017年度とほぼ同数で、のべ利用時間数は6%減少しました。これは、利用頻度の減少や支援開始後に入院・入所し短期間で終了する人が増えているためです。

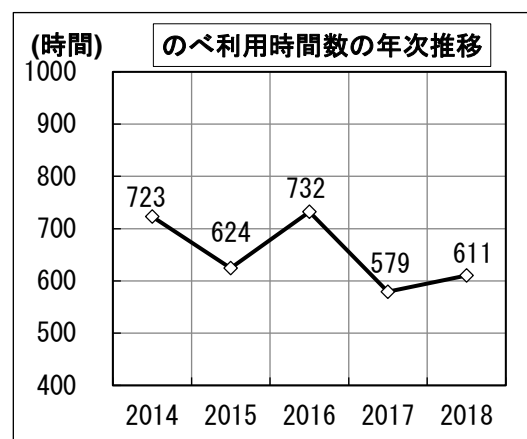
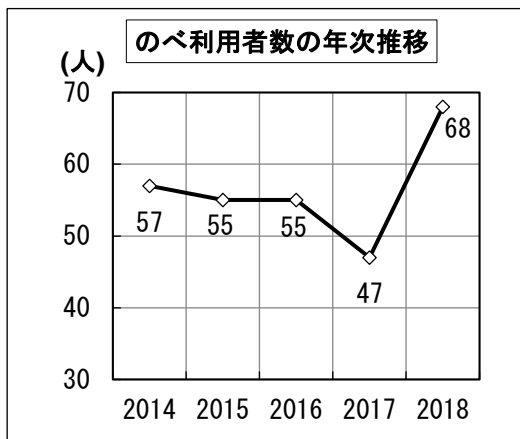


- 介護度の内訳は、2017年度に比べ、要支援1と要介護1の割合が増えています。
- 支援内容の内訳は、2017年度に比べ、身体介護が1%減、身体介護と生活援助の組み合わせが2%減、生活援助が3%増となっています。



- 相談のみで契約に至らなかったのは、入院や死亡、希望時間に添えない等の理由からでした。
- 依頼は居宅介護支援事業所が21件、東広島市地域包括支援センターが3件でした。
- 契約終了は10件で、入院・入所4件、死亡3件、自立1件、家族対応2件でした。

② - iii 障害者総合支援



- 介護保険からの移行の新規契約が1件あったため、5人から6人になりました。

③ 研修報告

③ - i 内部研修

- 倫理・理念・法令順守などの課題研修を9回、実技研修を5回行い、ヘルパーの参加率は99%でした。
- 2018年度は、「現場の判断力向上と技術指導ができるヘルパーを育成する」を目標に取り組み、17人中16人が内部研修で伝達講習を行いました。伝達講習を行うことで資料作りや技術指導のための情報交換が活発になり、現場の判断力がついたことで指示待ちから報告が増え、自主性が向上しています。

③ - ii 外部研修

- 全ヘルパーに年1回以上の参加を義務付けており、2018年度は全員参加を達成することができました。

④ 社外活動

- 毎月、東広島市自立支援協議会ヘルパー部会に参加しました。昨年起きた豪雨災害の影響で、災害時のサービスの対応方法について協議し、また、事業所間では道路状況を頻繁に情報交換するようになりました。
- 2019年度から東広島市で開始される地域生活支援システムの緊急時の受け入れ・対応について障害福祉課より事前説明会や個別説明を受けましたが、日中勤務しながらの夜間対応は現実的ではないと判断し、協定を結ぶに至りませんでした。

⑤ 課題と方針

- 2019年度は、「利用者様の生活全般を担える事業所になる」を目標に、ヘルパーとの情報交換や利用者のニーズの把握を丁寧に行い、制度外での困りごとを陽だまりクラブで対応できるようシフトの見直しを行います。
- ヘルパーのスキルアップは、外部研修を受講することでプロ意識を高め、また伝達講習を行うことで自主性や積極性を向上していきます。
- サービス提供責任者の体制については、利用者に主副担当を決め計画的にサービス同行したことで、主担当不在時でもスムーズに指示が出せるようになりました。2019年も月3件同行し継続していきます。
- 人材確保については、ヘルパーの長期休みで人員不足になっても対応できるヘルパーを増やすため2019年度も引き続き2人募集します。

(3) 居宅介護支援（営利事業）

① 目的

- NPO法人として培った柔軟性・情報力・ネットワークを生かし、本人・家族の希望する生活の実現の為にケアマネジメント事業に取り組みます。

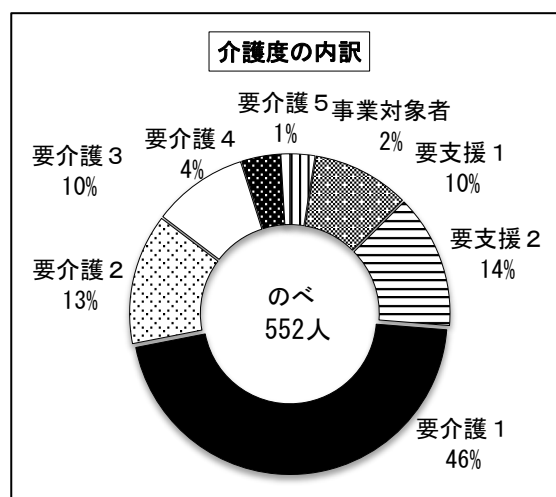
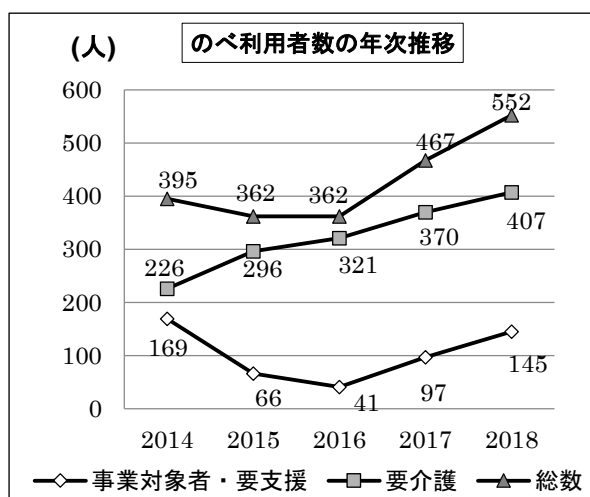
② 実績報告

利用者実数

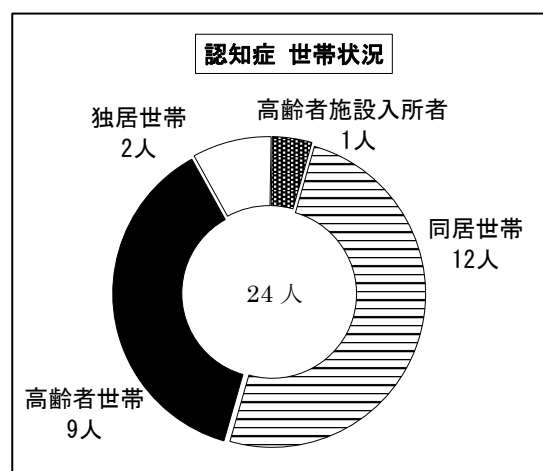
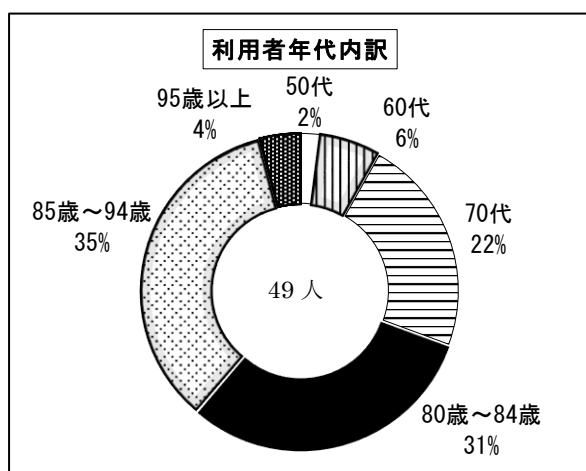
2019年3月31現在（人）

事業対象者※)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
2	6	6	22	7	2	2	2	49
	14		35					

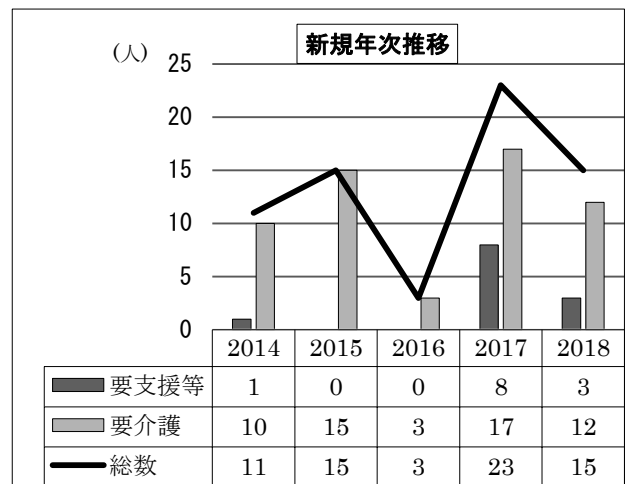
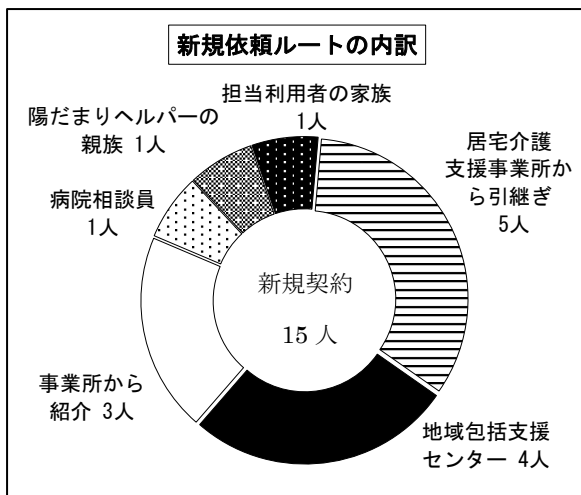
- 2018年度は常勤2人体制（管理者との兼務1人・専従1人）で行いました。



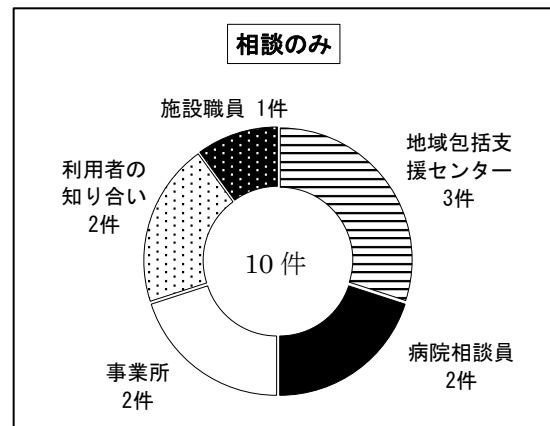
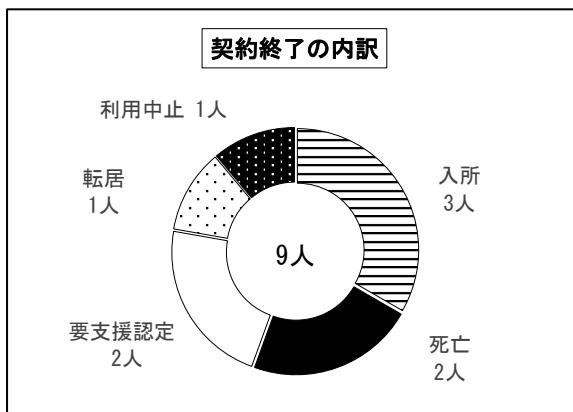
- 利用者数の前年比は、要支援150%、要介護110%、全体ではのべ85人（120%）増加でした。
- 介護度の内訳は、全体の7割が要介護1までの軽い方が多いのが特徴です。



- 利用者の年代は85歳以上の方が全体の39%を占め、その内37%の方が独居、高齢者世帯です。
- 利用者の24人(49%)は認知症で、独居、高齢者世帯の半数の方が陽だまりクラブを併用し、自宅での生活が成り立っている状態です。



- 新規契約は他の居宅介護支援事業所から、人員不足による引継ぎ4人、利用者との関係悪化による引継ぎ1人がありました。新たなルートとして、陽だまりヘルパーの親族1人、訪問看護ステーション1人がありました。



- 「利用中止」の1人は、デイサービスを利用しなくなったためです。
- 契約前に本人が死亡、施設入所、他のサービスに繋いだケース、認定結果が要支援だったなどにより、10件は相談のみで契約には至りませんでした。

③ 研修報告（社外研修）

- 法改正に伴う研修の他、医療と介護の連携をテーマにしたもの、倫理・個人情報・法令遵守、認知症研修などを受講しました。
- 民生委員とのつながりづくりをテーマにした集いの場に2回出席しました。

④ 課題と方針

- 要支援者及び事業対象者の委託業務は、報酬に対し求められる事務作業が年々増えており、今後件数を増やすことが出来ない状況になっています。
- 2019年度は「困った時に相談しやすい事業所」を目標に、迅速な対応ができるようケアマネジャー3人体制を目指します。また、独居や高齢者世帯の利用者を担当している民生委員と繋がりを持ち、情報共有していく方針です。

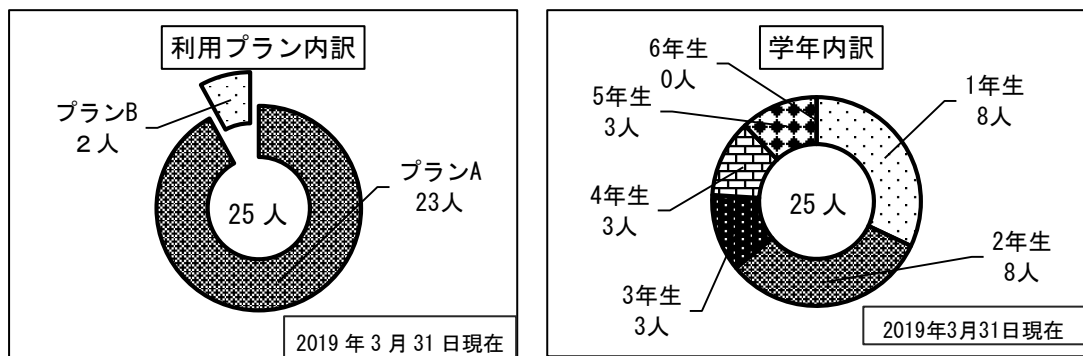
(4) 陽だまり放課後こどもくらぶ（営利事業）

① 目的

- 「じぶんを大切に育てる」をモットーに、2013年から主に公立の学童保育を利用できない小学生を対象に開始し、2017年4月から東広島市の補助事業として運営しています。

② 実績報告

② - i 利用登録実数



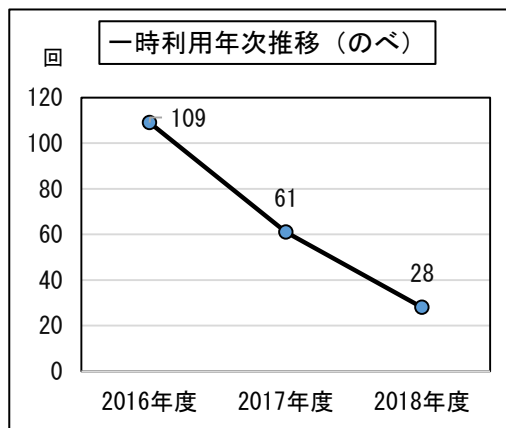
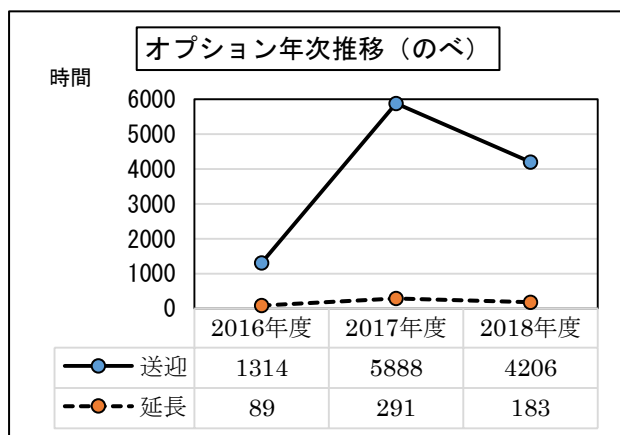
※ プランA（定員25人）…東広島市の利用要件を満たす児童、プランB（定員3人）…プランA以外

② - ii 月別登録児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	5	5	5	6	6	6	8	8	8	8	8	8
2年生	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)	8(1)
3年生	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3
4年生	4(1)	4(1)	4(1)	4(1)	4(1)	4(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)
5年生	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3
6年生	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	1(1)	1(1)	1(1)	0	0	0
計	27(3)	27(3)	27(3)	28(3)	28(3)	28(3)	28(3)	28(3)	28(3)	28(2)	28(2)	25(2)

※ 括弧内の数字はプランBの登録児童数

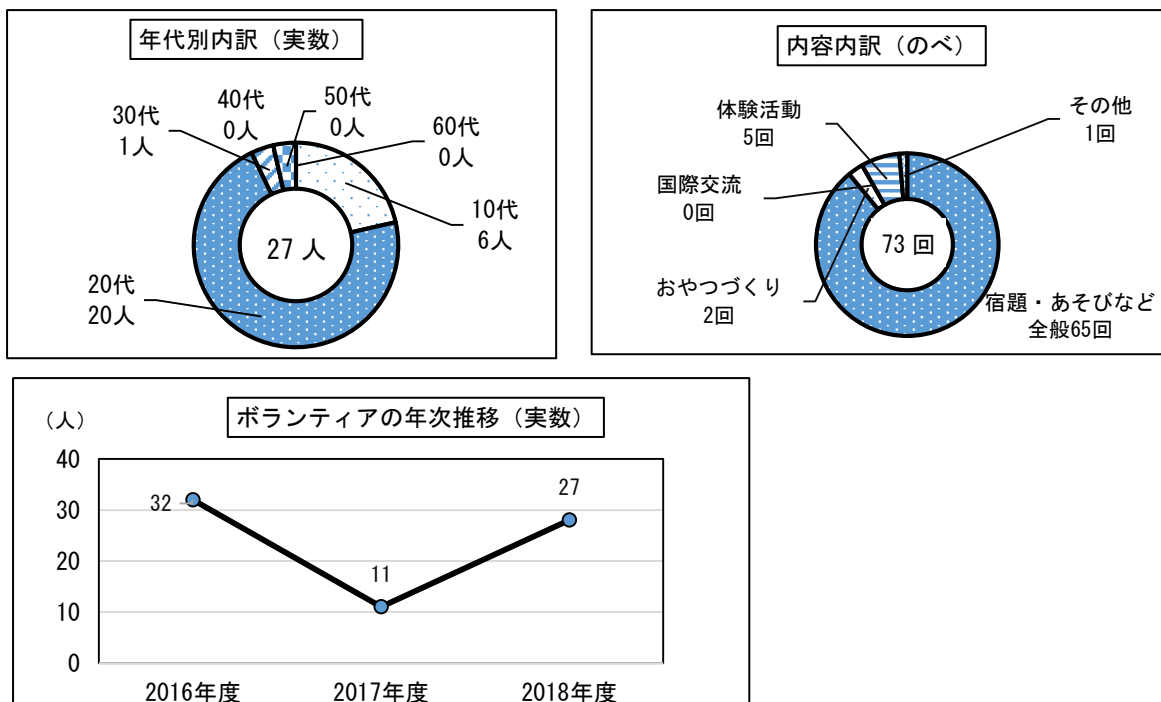
② - iii 送迎・延長利用



- 徒歩の三ツ城小学校児童が全体の半数を占めているため、送迎の回数が減っています。

③ ボランティア

③ - i ボランティア



- ボランティアの多くは大学生で、主な紹介元は教育委員会生涯学習課でした。その他、ホームページを見た個人の応募がありました。

③ - ii 送迎ボランティア

登録実人数

(人)

運転ボランティア	徒歩ボランティア	合計
5	0	5

④ 研修報告

④ - i 社外研修

- 2018年度は発達障害をテーマとした研修を中心に計6回、のべ7人が参加しました。
- 2人が放課後児童支援員認定資格研修を受講し、資格を取得しました。(資格保有者：3名)

④ - ii 社内研修

- 非常勤を含めた全スタッフを対象に年6回実施し、情報共有を行いました。

⑤ 課題と方針

- 保護者交流会と個人面談を実施し、保護者との情報共有と連携を図りました。個人面談の参加率は100%、保護者交流会の参加率は50%でした。
- 体験活動は24回実施しました。2019年度も子どもも主体で、様々な活動を企画していきます。
- 2018年度は6月まで常勤1人でした。7月から常勤が増え、毎日2人体制になり、非常勤14人(一般・学生スタッフ)で毎日3人体制を整えることができました。

(5) 地域活動

① お茶会の開催

	期 日	内 容	参加者 (高齢者)	ボランティア等
1	5/16	わくわく体操	15 人	・会員 2 人、親子 2 人
2	7/20	ミニコンサート	11 人	・会員 1 人
3	10/12	三味線	15 人	・会員 2 人、社協 1 人、住民自治協 1 人
4	2/13	森川ショー	14 人	・会員 3 人
延べ人数			55 人	12 人

- 新規参加者は 1 人でした。希望者が定員を超える回もあり、高齢者にとって楽しみな会として定着しました。

② 小学生のための居場所づくり事業

(人)

	期 日	内 容	企画・協力	参加 人数	ボランティヤ数 (学生数)
1	8/21	作って楽しむブンゴマ&クラブ	広島大学 OPERATION つながり	28	12 (10)
2	8/22	みんなで楽しむ将棋あそび	広島大学将棋部	26	13 (11)
3	3/26	マジック&ジャグリングショー	広島大学 Jack-o'-lantern	19	16 (14)
4	3/28	デザートクッキング & 紙コップでロケット発射	広島大学 OPERATION つながり	29	11 (9)
5	4/3	陶芸	ねるこ窯	12	10 (7)
合 計				114	62 (51)

7
月

豪雨災害の影響のため、夏休み 3 回の予定が 2 回の実施となりました。

- 高校生ボランティアはのべ 24 人で、黒瀬高校・西条農業高校・河内高校・賀茂高校から参加がありました。将来の進路に繋げて参加する生徒が多く、高校の先生からも貴重な機会となっていると評価を受けました。

③ 地域行事等への参加

- 地域行事「光の宴」は公園工事のため中止となりました。
- 三ツ城自治協議会情報部会主催の「やさしい日本語教室」(2月23日)に参加しました。

④ フリースペースの貸し出し

(回)

	団体・グループ	内 容	利用回数
1	バナリナ	子育てママのオカリナ教室	8
合 計			8

⑤ 課題と方針

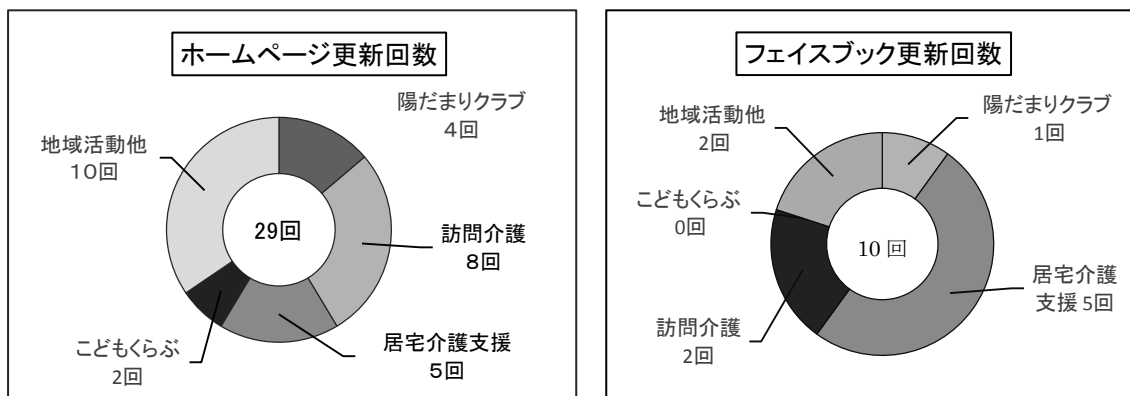
- 地域との信頼関係づくりのために、三ツ城住民自治協議会福祉部会長、生活支援コーディネーターをお茶会に招きました。今後も陽だまりを知ってもらう機会を作っていくと共に、地域行事への協力依頼があれば積極的に参加していきます。
- 居場所づくり事業は、大学生団体と繋がる貴重な機会となっています。広島国際大学・眞砂先生の退職によりゼミ生とのつながりは途絶えましたが、新たに広島大学の2つのサークルと繋がることができました。今後は、お茶会や放課後こどもくらぶ等の事業でも協力を得る予定です。ただし、春休みはニーズが減っていることから2019年度は夏休みのみの実施とします。
- フリースペースは利用回数・団体ともに減少していますが、地域に気軽に利用してもらう場として今後も解放していきます。

(6) 広報活動

① 陽だまり通信

- 50号(7月)、51号(11月)、52号(3月)を発行し、利用者・関係機関・寄付者に配布した他、西条中央地区で回覧しました。

② ホームページ・フェイスブック



③ 課題と方針

- 陽だまり通信を回覧したことで、地域の方1人から寄付や物品等の支援が届くようになりました。また、他事業所や利用者の感想から、陽だまりの様々な取り組みが好意的に受け止められていることが窺えました。2019年度も共感を得るツールとして活用していきます。
- 2018年度と比較しホームページは更新回数9回増でした。マスコミや寄附団体も閲覧するため、2019年度も各事業で掲載計画を立て内容の充実を図っていきます。
- フェイスブック投稿は2018年度より5回減で、上手く活用できていません。ホームページとの違いを明確にし、何を投稿すべきかを検討していきます。

(7) その他の活動

① マネジメント力の強化

① - i 研修報告

	期 日	テ ー マ	主 催	参加者
1	5/27	NPO/NGOの組織基盤強化のためのワークショップ	ひろしまNPOセンター	2人
2	①6/7, 8 ②6/28, 6/29	東広島市地域福祉計画策定に係る市民ワークショップ	東広島市社会福祉課	5人
3	11/25	国際化のまちづくりミーティング	東広島市学園都市推進課	2人
4	12/8	ひろしまNPOセンター設立20周年行事	Hiroshima Futuer Party2018	2人
5	1/11	ひろしま未来交流会	呼びかけ人：広島文化振興財団・藤森氏	3人
6	2/27	広島県・広島市NPO法人実務者研修	広島県、広島市	1人

■ 市民ワークショップはコンサルタント主導だったため、途中で参加を取りやめました。

① - ii 発表・展示・講師派遣

	期 日	内 容	主 催	講師・手伝い
1	1/20	福山市おでかけ支援事業運転者講習会	福山市	佐々木

■ 「たちまち全員集合」は、担当者が直前に行けなくなったため不参加となりました。

② まちづくり・協働・ネットワークへの取り組み

② - i 委員の委嘱

	会 議 名	担 当 課	委 員
1	東広島市福祉有償運送等運営協議会	高齢者支援課	宮本
2	東広島市市民協働のまちづくり推進会議	地域づくり推進課	市川

③ 助成および寄付

	内 容	寄 付 団 体 等	金 額
1	寄付	個人151件、企業・団体4件	1,363,890円
2	活動支援金(寄付)	久光製薬(株)ほっとハート倶楽部	100,000円
合 計			1,463,890円

■ 寄附をしやすい環境づくりのために、2019年2月に認定NPO法人の申請を行いました。